



番外編 天皇制を維持するには？



参考 : <https://news.yahoo.co.jp/byline/mizushimahiroaki/20190501-00124418/>

令和時代の幕開けにお祝いムード一色ですが、NHK番組「日本人と天皇」で聞いた生前の三笠宮殿下の言葉にハッとしたしました。

「華族制度が廃止されたことで天皇制の外堀は埋められたのです。」

殿下は戦後の皇室典範の改正にあたり女帝の検討は当然と意見された進歩的な皇族ですが、仮に女系天皇を認めても配偶者が来てくれるだろうかと心配されています。

私は考えたくないことを考えようとなかった自分に気がつきました。

現行の天皇制を維持するにはそれを可能にする家族制度、つまり血統を維持するシステムが必要です。この400年間、明正天皇以来側室の子でない天皇は昭和天皇までいなかったという事実を考えると、一夫一婦が当然の今日、システムとしての男系天皇制は古川元官房副長官が言うように「自然消滅」するしかないでしょう。

もし国民が統治機構としての天皇制の存続を望むならば、皇室典範を変えないわけにはいかないのです。悠仁様がいるからしばらくは大丈夫？ とんでもない。適齢期までの10年など、2600年を超える天皇家の歴史から見れば一瞬です。

嫌な言い方ですが、理想の家族像のもとで子供をつくることを国民から強制される、この想像を絶する人権無視のプレッシャーを国民としてどう考えるか。

皇族の範囲拡大はその一助ですが、その生活費を賄うのは税金だ、けしからんと言う国民もいるでしょう。しかし国家公務員は60万人もいます。私は天皇家が消滅するぐらいなら、役人を減らしても財政措置をとるべきだと思います。